

## 国際保健推進室からのお知らせ



日々の研究活動や報告会は日本人学生と英語でコミュニケーションを取りながら行っています。



交換留学生と交流することで多くの学生が国際コミュニケーション力を磨きます。

## 留学生の受け入れによる国際力の強化

生体情報検査科学領域は、実践的なグローバル人材の育成を重視しており、現在5名の外国人留学生を受け入れ、最先端研究の推進だけでなく、領域全体の国際力強化に力を入れています。また、6月には米ワシントン大学から3名の交換留学生を受け入れました。多くの学生が主体的にホスト活動を経験することで、国際的コミュニケーションを実践する絶好の機会となりました。

## リハビリテーション専門職学生受け入れ

6月にモンゴル国立医科大学でリハビリテーションを学ぶ学生が本学を訪問しました。研修期間中は、保健学科学生や群馬パース大学学生との交流、授業や施設見学など多彩なプログラムに参加しました。

沼田脳神経外科循環器科病院や富士たちはなクリニック、療育センターきぼうなど県内医療施設を訪問し、医療制度やリハビリテーションの内容について理解を深めました。



保健学科学生との交流  
(太巻き作り)



群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。これらの活動を進めるための組織として保健学研究科附属研究・教育センターが設置され、このセンター内には5つの推進室があります。今回は国際保健推進室からの報告になります。

私たちの活動をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力をお願ひいたします。⇒

お問合せ先： 保健学研究科長 斎藤貴之 ([tsaitoh@gunma-u.ac.jp](mailto:tsaitoh@gunma-u.ac.jp))

